

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

【氏名】

三王昌代

【所属】(助成決定時)

東京大学大学院総合文化研究科

【研究題目】

18世紀、東アジア海域世界におけるスルルー王国と諸国間の交渉に関する比較研究

【研究の目的】

スルルー王国は15世紀後半から20世紀初頭にかけて、現在のフィリピン南部からカリマンタン島北西部にかけて栄えた。この間、スルタンは各国との諸交渉を繰り返していた。ところが残念なことに、これまでの研究は、おもにヨーロッパ諸語の文献に基づいて行われ、スルルー王国で使用する言葉で記されたアラビア文字表記の文書(ジャウイ文書)は利用されてこなかった。それ故、スルタン側の意図や解釈は歴史研究や地域研究においても反映されにくく、私たちの同地域への理解が深まらないのが実情である。

本研究ではジャウイ文書と英語文書のあいだに見られる認識の相違点を明らかにし、また諸言語資料に見られるスルルーへの眼差しの特徴を明らかにすることで、同地域を複眼的に把握・理解しようと試みる。現在の歴史叙述に不足している新たな知見を提供し、東アジア海域世界への私たちの理解を深めることが本研究の目的である。

【研究の内容・方法】

India Office Library, *Home Miscellaneous Series*, Volume 629, pp. 456-461 (the original copies) に収められている、スルタン・ムイッズッ = ディーン(在位期間は1748年(?)から1763年半ばまでくらい)などとイギリス東インド会社代表のアレグザンダー・ダルリンプル Alexander Dalrymple(1737-1808)とのあいだで、1761年にはじめて結ばれた暫定的「友好と通商に関する諸条項」には、ジャウイ文書版と英語文書版があった。本研究で用いるこの資料は合計3枚あり、1枚目左側(456頁)にはマレー語のジャウイ表記で記された文書が、右側(457頁)には英語で表記された文書がある。文書の中央上部には割り印が押され、英語文書の右下にはダルリンプルの署名と彼もしくはイギリス側の印が押されている。2枚目(459頁)はアラビア文字表記と英語表記の文書で、アズィームツ = ディーン 1世(在位1735-1748, 1764-1774)の署名がある。そして3枚目左側(460頁)の内容は1枚目左側とほぼ同じで、その右側(461頁)にはスルルー王国に関係すると思われる人物の署名がある。最初にジャウイ文書については現代マレー語に転写したうえで現代日本語訳を付して解説し、英語文書については現代日本語訳を付して比較を行うことで、相互の文書に見られるだろう表現や認識の相違などを明らかにする。

また、スルタンが派遣した使節らの北京訪問がかなわなかった事例を含めて、スルルー王国と中国(清朝)の交渉の全体像を把握する。その際には、中国に残された公文書に読み下し文と現代語訳を付し、スルルー使節の述べた言葉に垣間見られる彼らの中国行きの諸事情と中国の対応を明らかにする。さらに18世紀における諸記録などを幅広く収集し比較検討する。

【結論・考察】

ジャウイ文書と英語文書とを比較検討した結果、スルルー周辺でのイギリス人の土地所有に関し、両者の表現には認識の違いが表れていることが分かった。紙幅の都合上、具体的な事例を挙げることができないが、ジャウイ文書には英語文書には記されていない条件が付されていたり、英語文書版とはニュアンスの違う言葉や表現が使われていたりする点などにも、スルタン側の解釈を垣間見ることができる。

また、中国の公文書におけるスルルーの使節の供述内容には、呂宋(ルソン)との関係が悪いなどの諸事情が記されており、中国の官僚も調査に乗り出したが、中国皇帝は両者のあいだに生じた諸問題に直接介入することはなかった。官僚は、呂宋よりスルルーの人のほうが人となり勇敢で戦いにも長けていると判断している。中国語資料とスペイン語資料のあいだに見られる認識の相違もまた興味深く、これらスルルーへの視線についてはさらに検討する必要がある。

